

リンドウ実証栽培(1年目)

<研究目的>

- ・除染後農地におけるリンドウ栽培の実証
- ・山木屋地区に適応する品種の検討

<実施場所>

川俣町(山木屋)

福島県農業総合センター生産環境部福島市駐在

Fukushima Agricultural Technology Centre
福島県農業総合センター

現地に導入した実証技術

- ① 土壌診断
- ② ジベレリン処理によるリンドウの株養成技術(H20県成果)
 - ・定植30日後にジベレリン処理を行い、生育を確保。
 - ・定植年の切り花可否を判断。
- ③ 県オリジナルリンドウ品種主体の連続出荷技術(H20県成果)
 - ・14品種を供試し、需要期出荷が可能となる品種の検討。
 - (・小トンネル栽培を行い、同一品種の開花期を前進。開花期の拡大)

Fukushima Agricultural Technology Centre
福島県農業総合センター

リンドウについて

- ・需要期(8月盆、9月彼岸など)に出荷できる品種を導入
- ・リンドウは宿根草。栽培前の準備がとても重要
- ・水田転換畑での作付けを推奨

極早生 : かせん極早生**、ながの極早生
早生 : ふくしまさやか**、尾瀬の夢**、ながの2号
中生 : ふくしましおん**、真紅**
彼岸 : ふくしまほのか**、ふくしまかれん**、かせん彼岸**、しなの3号
晩生 : 尾瀬の青華*、尾瀬の大将*、シンデレラ*

(** : 県オリジナル普及品種、* : 県内民間育成品種、無印 : 他県民間育成品種)

リンドウ品種別開花期 (りんどう栽培の手引きより抜粋)

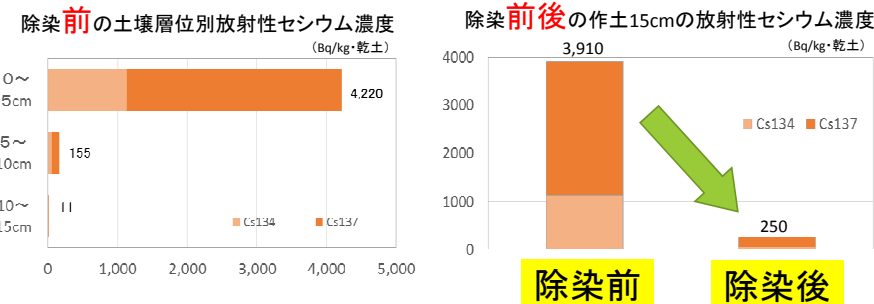
品種	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
かせん極早生																
かせん早生																
かせん中生																
かせん彼岸																
かせん晩生																
尾瀬の夢																
尾瀬の大将																
シンデレラ																



土壌の状況(放射性セシウム)

実施場所	地目	除染方法	備考
川俣町(山木屋)	水田	「表土剥ぎ+客土」	5cm剥ぎ取り、5~10cm客土

除染により作土15cmの放射性セシウム濃度は大幅に低下



※採土日の平成26年4月7日に減衰補正した値

土壌の状況 (化学性)

- ・除染方法によっては、土壌の条件が大きく変わることもあります
- ・栽培前には、土壌分析が必須です

除染後のほ場



客土の状況



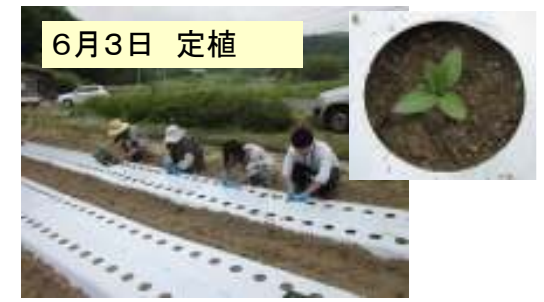
表1 表土剥き客土による除染前後の土壌分析値 (3カ年未耕作の水田ほ場)

採土時期	pH (H ₂ O)	EC (mS/cm)	CEC (meq/100g)	P ₂ O ₅ (mg/100g)	K ₂ O (mg/100g)	CaO (mg/100g)	MgO (mg/100g)
除染前	6.2	0.06	16.6	68.8	23.5	184.9	35.3
除染後	6.5	0.04	7.4	51.7	8.4	129.0	22.4

※国直轄の除染方法は、表土5cm剥き取り、真砂土を5~10cm程度客土
 ※除染日は平成26年4月中旬 ※採土日(除染前:4月7日、除染後:4月23日)



6月1日 施肥畦立て



6月3日 定植



8月25日



10月3日

リンドウの生育

定植30日後にジベレリン処理を実施 (県成果の実証)

→ 除染後農地でも旺盛な生育を示した。

処理あり



処理なし



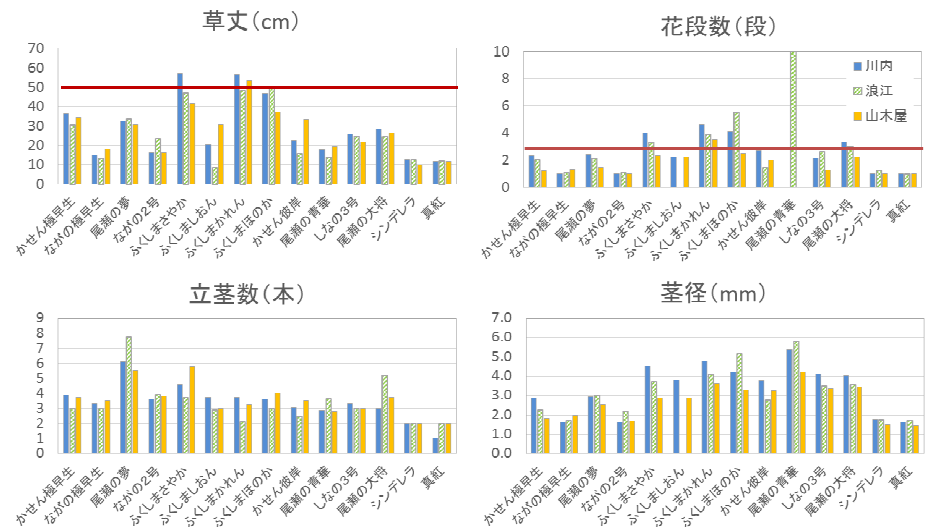
ジベレリン処理の有無と抽苔率

品種名	抽苔率 (%)	
	処理あり	処理なし
かせん極早生	99	40
尾瀬の夢	100	0
ふくしまさやか	100	10
ふくしまおん	74	40
ふくしまかれん	100	0
ふくしまほのか	100	0
かせん彼岸	97	0
尾瀬の大将	98	0
尾瀬の青華	64	0

リンドウの生育

1年目としては十分な生育

草丈・茎数は順調な生育。花段数やや少なく、茎はやや細い。



リンドウの生育

定植30日後にジベレリン処理を実施

→ 一部の品種では定植年に切り花ができた。



定植年でも切り花が可能

品種名	出荷見込本数 (本/a)	うち秀品率 (%)
ふくまさやか	49	5
ふくましおん	145	71
ふくまかれん	464	17
ふくまほのか	97	67
かせん彼岸	45	33
尾瀬の青華	70	70

※定植株数はa当たり600株

早期のフラワーネット設置と適切なネット管理が必要

野生鳥獣による被害

定点カメラによる調査(回)

	イノシシ	タヌキ	キツネ
日中	-	-	-
夜間	15	10	3

※193日間調査。日中6:00~17:00、夜間17:00~翌6:00

→ 電気牧柵等による対策が必要



イノシシ横断によるマルチ破れ状況



リンドウほ場脇に出現したイノシシ



電線が水路に近かったため、侵入を許してしまった



リンドウの株自体は被害なし

導入した実証技術の評価(まとめ)

① 土壌診断

・除染後のほ場においても、リンドウ定植年の生育は良好

② ジベレリン処理によるリンドウの株養成技術

・定植30日後ジベレリン処理で、生育確保。

・一部品種では、定植年に切り花収穫が可能。

③ 県オリジナルリンドウ品種主体の連続出荷技術

・供試14品種の生育は良好。

次年度の計画

・切り花調査(開花期、品質)

・市場PR、求評

